

北島雪山(三立)  
きたじませつざん  
東照宮完成・1636 =

書家、儒学者。唐様書風の基礎を築く。権勢を嫌い奇行多く不遇であった。

肥後国熊本城下で、加藤清正の侍医でその子忠広の改易後は細川藩医となった北島宗宅の子に生まれる。

家光鎖国完成1641 = 5歳 :

明滅亡・・・1644 = 8歳 : この年、明が滅亡して、多数の僧や学者が日本に亡命して来る。

・・・1645 = 9歳 :

すでに熊本妙永寺の日叟から朱子学を学んでいたが、

父に連れられ長崎の別宅を訪れるするうち、

別宅に寄寓したり訪問してくる明の学者から、王陽明の学説を教わり、

徳川家光没・1651 = 15歳 :

明の正統書法を創始した文徴明の秘伝について、

新利根川完成1654 = 18歳 :

第一の師黄檗僧雪機から書道の骨格を学び、

明暦の大火・1657 = 21歳 :

第二の師黄檗僧即非から、面談で「二天一脈の法」を教わり、

第三の師黄檗僧独立から書道の精神を会得、

清帝国始・・・1661 = 25歳 :

\*ついに、第四の師愈立德から、書道の秘訣「撥鑑法」を口頭で伝授される。

この間、藩儒となるが、

殉死の禁止・1663 = 27歳 :

・・・1664 = 28歳 :

藩主細川綱利に「大学」を御前講義などするうち、

戦国時代の記憶が消えないうちにと、肥後国の地誌編纂を志すようになり、領内を隈なく踏査して記録、

酒井忠清大老1666 = 30歳 :

入鉄砲出女令1667 = 31歳 :

藩主の許しを得て、明の史書名に倣った「国郡一統志」と名づけてまとめに入って、

完成も間近になる矢先、

シャクシャインの乱 1669 = 33歳 :

\*幕府の「陽明異学の禁」が起こり、藩を追放され、長崎に移住。

東西海運確立1672 = 36歳 :

荒れ果てたかつての別宅に籠り、万巻の書物を集めて、読書や書道研究に没頭した後、

・・・1677 = 41歳 :

\*さらに磨きをかけるべく、江戸に出、青山海蔵寺の肥後出の鉄眼禅師の庵に寄宿後、室町に仮住まいし、さまざまな奇行で江戸っ子らを驚かせながら、林春斎・木下順庵ら一流の文人らと交流、入門してきた細井広沢に、書道の奥義「撥鑑法」を伝授する一方で、自らの新しい書風を確立して、

徳川綱吉將軍1680 = 44歳 :

天下一禁止・1681 = 45歳 :

\*長崎に戻り、

以後、仕官も権勢におもねもせず、奇行を続けるも、庶民からは尊敬され、後半生を自由気尽に送って、

生類憐令始・1687 = 51歳 :

湯島聖堂・・・1690 = 54歳 :

生類憐令頂点1695 = 59歳 :

・・・1697 = 61歳 :

丸山の酒屋で、誰にもみとられずに、没した。

その書風は、細井広沢を介して、唐様書風の一大山脈を形成して行く。